

「進路を考える会」議事録／①人文科学系

8階 講義室

Aさん：上智大学 総合人間科学部 心理学科

Bさん：早稲田大学 文化構想学部

Cさん：法政大学 社会学部 社会学科

1. 進路を決定した時期と、その大学を選んだ理由

Aさん：高校入学時は理系に興味があったが、高1の時、理系の某大学のオープンキャンパスに行ったら、あまり興味はないと気づく。実際に足を運んで気づいたことがいくつもあった。そうやって、いろいろ考えていく中で人の心に興味があることに気づいた。心理学は幅広い。自分がやりたい分野がその大学にあるかどうかをキチンと調べておく方が良い。専門をしっかり調べておくことでより自分のやりたい勉強がみえてくるから。
志望校は高2の秋に決定。

Bさん：高3の10月に最終的に早稲田の文化構想に行こうと決意。

もともと語学の勉強が好きで、神奈総でもフランス語を履修していた。その為、高1の頃は、上智大学の外国語学部フランス語学科を希望していた。

高校生活を送っていく中で、だんだんと、語学以外の勉強もやってみたいと思うようになった。そのことを担任の先生に相談したら、早稲田を紹介された。

語学、セクシャリティなど、興味分野がたくさんあり、高校時代に一つにしぼることができなかった。

早稲田のオープンキャンパスに行き、一目惚れしてこの大学で学びたいと強く思った。

Cさん：決定時期は、高2の冬。高2の春に学部選択から始めた。高2の秋、広告代理店で働いている父に仕事の内容を聞く。高2の冬、センターそっくり模試を受ける。その時、自分はあとのくらい頑張らなければならないかを考えるようになった。学力との相談で、法政大学がヒットした。

2. 入試方式

Aさん：一般入試

第一志望校の前に一校受けておくと、試験になれるので有効。

TEAP入試は、良し悪しがある。TEAPで基準を取って置くと、入試は英語が免除になる。英語が得意な人はかえって不利になる。英語が苦手な人向けだと個人的には思う。

高2までに、英検をとっておくと安心できる。入試のための勉強はまず英語からはじめると良い。

Bさん：一般入試

最初はセンター試験を受けたが、痛恨のミスをしてしまい、一般入試となった。

母から併願校を増やすよう勧められ、受験したが、入試日程が重なることは、肉体的にも精神的にもかなり負担となることを実感した。

指定校は基準は達していたが、校内でも狙っている人が多く、倍率はヘタすると一般入試より高く難しい。また応募するための書類、小論文、志望理由などを書くのには結構、時間と労力を要する。その時間、勉強する時間は削られる。このまま指定校をねらって突き進むべきか、指定校ではなく一般入試で勝負すると決めて勉強に打ち込むか、進路指導の先生に相談した方が良い。適切なアドバイスをくれた。そこで潔く頭を切り替えることが出来、受験勉強に打ち込むことができた。

Cさん：指定校推薦

高3の9月上旬に、指定校で受けることを決めた。自分の行きたい大学学部、指定校があるか確認する。

指定校と一般入試の学力の差はさほど感じない。自分は、指定校で進路先が決まった後も英語の勉強を続けていた。

法政の指定校では、社会学科はあったが、メディア学科がなかった。学部では、メディア社会と迷ったが最終的に広く学べるように社会学科を選択した。

3. 本格的に受験勉強を始めた時期

Aさん：受験勉強を本格的に開始したのは高3の4月、部活を引退してから。

4月の模試の結果が悪かったため、それがキッカケとなりそれから猛然と勉強をするようになった。

Bさん：本腰を入れて取り組むようになったのは、高3の夏。指定校から一般入試にしようとして決めてから。それまでは、学校の授業に力を入れ、定期テストの勉強をしっかりと丁寧に行ってきた。語学が好きだったので、英語の勉強も学校の授業を軸に力を入れて取り組んでいた。

Cさん：高2の3月、志望校が決まってから。

4. 勉強方法

A さん：高3 河合塾に通っていた。勉強のリズムをつけるのに自習室や図書館はとても有効。学校の図書室、フリースペースなども利用した。

1年2年の時は、部活ばかりで受験勉強はしていなかったが、学校の授業はしっかり理解するように努めた。定期テスト1週間前は、部活が休みになるので、その時、しっかりと定期テストのための勉強を行っていた。これは、のちに、受験勉強にも役にたった。一度、授業でやったものは途中忘れてしまったとしても、やり直す時、思い出し覚えやすい。

この時間は、この勉強をやるとあらかじめ決めておいた方がよい。机に座ってから何をやるうでは時間が無駄になってしまうため。

B さん：値段は高いが部活と両立するために、個別指導の塾に週2回通っていた。

学校の課題と参考書で勉強をおこなっていた。

C さん：予備校などは通わずに、スタディサプリを使って勉強をしていた。通学最中にスタディサプリを見て、学校の図書室などで勉強をしていた。フリースペースも利用した。

スマホの時間管理アプリを使用してモチベーションを維持した。科目とやるべきルーティンをスマホのアプリに入れると、どれをどれだけ勉強したかわかる。それを見て、「今週はこれが足りなかったな、ならば来週は足りなかったこの部分を強化してゆこう」と計画を立てる際の目安となった。

睡眠時間は削りなかった。受験生の頃も、23時～7時くらいまで眠った。睡眠時間をけずっても、やる気が起きないし、次の日の授業の内容が頭に入っていない。しっかり眠って、授業はしっかり聞く。この姿勢を最後まで貫いたことはとても良かった。

5. おすすめの参考書

A さん：英単語は2冊から3冊を2周～5周くらいやる。

参考書をいつまでに、何ページまで終わらせると自分で決めて、こなしていた。

過去問（赤本）は、あまりアテにしない方がよい。それよりも解説がしっかりしたものをキチンと理解して進めてゆく方がよい。

『英語頻出問題1000』 『現代文へのアクセス』 『マドンナ単語帳』

『東進漢文単語』

B さん：自分ができそうな参考書を一科目に一冊選び、それを繰り返して行く。

《英語》 旺文社『基礎英語長文問題精読』 数学社『難関過去問シリーズ』

《国語》 古典・学校のワークブック 『1日1題30日完成漢文』（←とても薄い問題集だが侮れない）

《世界史》 高橋雄幸先生のプリント。一押し！雄幸先生のプリントはこれ以上ないくらい素晴ら

しい。これを越えるものは見つからなかった。これを全部しっかりやれば、東大レベルだと思う。雄幸プリントを有効に使えば世界史はバッチリだと思う。雄幸プリントと雄幸授業で、自分の世界史の成績は成り立っていると言っても過言ではない。雄幸プリントは詳細も載っているので、わからないところはすぐに雄幸先生に質問に行っていた。そこで納得できたものは揺るぎない力となった。

Cさん：《世界史》学校のプリント。山川書店の書き込み式教科書

《古典》 基本的な問題集。自分で見て理解できるものを選んでいた。

《英語》 フォレスト

6. 部活、委員会、行事との両立

Aさん：スポーツ大会・・・参加することに焦りはなかった。それよりも、最後しっかり関わり、しっかり参加したことによって、思い残すことなく、その後の勉強に打ち込むことができた。翔鷗祭・・・高3の時も参加した。9月は夏休みを終えて夏休み頑張ったぶん、気が抜ける時期でもある。そんなときに、楽しみ息抜きとして翔鷗祭があり、そこで充電をして本番まで息切れせずに頑張ることができた。

Bさん：運動部に所属していた。夏前、最後の引退試合まで出場していた。それが最終的には、スッキリとした気持ちで受験勉強に取り組むことができた。最後までやり抜いたことが受験の時の自信になった。

Cさん：1～2年生の時は、ホールスタッフとして活動をしていた。

中間テストが終わってから、夏休みまでは時間が空くので、夏休みは特に勉強をするよう心がけていた。

部活動は3つ掛け持ちをしていたが、その際、優先順位を自分の中でしっかりと決めて、活動するようにしていた。今は、これに集中、それが終わったら、次は定期テストのための勉強に集中、と自分の中で決めて取り組んでいた。すべてを同じ気持ちで追いかけてやると、どれかが疎かになり、またできなかったことで自信をなくしてしまうので、最初に優先順位を決めて、あとは割り切って行動するようにしていた。気づいたら両立できていた。

行事は、最後の翔鷗祭となる高3の翔鷗祭にもホールスタッフのメンバーとして参加した。その時は焼きそばの屋台をやった。とても楽しく良い思い出となり、息抜きにもなった。

楽しむときは楽しむ。勉強する時は勉強する。それぞれにメリハリをつけて行動することがとても大切だと思う。

7. 8. (時間の都合により無)

9. 現役生に伝えたいこと

A さん：1～2年生は、今やっている部活や係りの仕事、委員会などをやり切ってほしい。時間はとられるかもしれないけれど、やりたいことをやめて勉強を始めても結局中途半端になってしまう。あとは授業と定期試験は、しっかりと受けてしっかりと取り組んでほしい。後で役立つことがたくさん出てくる。

3年生は、つらいと思うことがあっても、その中で楽しみを見出してほしい。勉強に楽しみを見出せた人は強い。楽しみながら受験勉強ができたらとてもいいと思う。悔いのないよう頑張ってもらいたい。

B さん：大学の授業は神奈総の延長に感じる。90分授業、自分で時間割を組むなど。神奈川総での生活をしっかりと送ることができた人は、大学で戸惑うことは少ないと思う。

早稲田の文化構想学部は、文系ならなんでもできる学部。いろいろな興味を持った人がたくさんいるので、神奈総で青春を満喫できた人にはもってこいの大学だと思う。

受験に関係ない科目も必ず役立つから、受験に関係ない科目もしっかりやっておくことを強くすすめる。実際、自分も、神奈総で受けた英語のプレゼン授業やテーマ研究が大学に入ってから役立っている。

C さん：大学生になっても、勉強は続く。日々、コツコツ勉強を継続してほしい。

また勉強の計画を立てる時に、必ず計画の中に休みの日（予備日）を作ってもらいたい。

メリハリのある行動を意識していればどれも中途半端にはならないと思う。

今、通っている場所は多摩キャンパスで自然がいっぱいある。休み時間はスポーツをしたり、友達とたわいもない話で盛り上がることができ、とても楽しい。

大学では、同じ目標や同じ意思を持っている人も多く、意見が一致することが多い。また違う意見であっても、それぞれの考えを聞いたり、ひとつのことについて語り合うのはとても意味深いと感じ毎日がとても充実している。